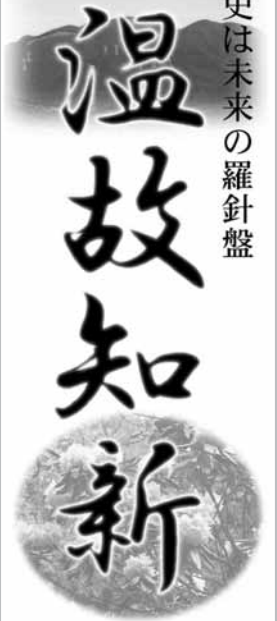


歴史は未来の羅針盤



今回は、近江日野商人館からお届けします。近江日野商人館では、これまでの常設展示を模様替えし、よりわかりやすい資料館になるように努めています。今回の記事内容も展示しています。秋に「日野町の引札(広告)展」、新年に「景気回復、補助サミット展」も企画します。どうか皆さんのご協力を。

「調べて、調べて関東へ」

六月の中頃、日野商人の子孫の方二名とともに、中仙道に日野商人の足跡を探しに出かけました。

日野商人は、家族を日野の本宅に残し、主に関東地方で商い、多くの商人が関東出店を経営しました。本宅と関東の往復には、主に中仙道を利用していました。

道中で不自由をしないように、日野商人の組合「大当番仲間」が、宿場ごとに「日野商人定宿」や「日野商人定休所」を指定し、個々の商人にさまざまな便宜を提供する全国的な仕組みを作りあげていました。この仕組みは、近江商人の中でも、日野商人のみが組織し、個人の商いを組織が全面的に支援するという、日野商人の優れた商法的一端を示すものです。

今回、群馬県の板鼻宿から長野県の下諏訪宿までの十六か所の旧

宿場を訪ねました。言わば「調べて、調べて関東へ」の旅です。

その結果、江戸時代の日野商人関係の古文書の写真が約二百枚撮影できたのはじめ、様々な日野商人の足跡を発見することができました。

例えば、現群馬県下で行商をしていた「近江国日野椀商人」という記録が見つかり、また、軽井沢宿や和田宿、下諏訪宿では、江戸時代の日野椀を発見することもできました。滋賀県外での日野椀の最初の発見だと思えます。

また、写真のような旅館の江戸時代の広告も多く見つけました。

「諸国商人衆定宿」と並べて、真つ先に「江州日野、中郡、八幡、商人衆定宿」と、日野商人のみが特筆されている広告が非常に多く、諸国の商人のなかでも、特に日野商人が上客扱いされていたことがわかります。また、広告に「日野商人

定宿」と書くことで、その旅館の信用度が上がるという宣伝効果があり、天下に鳴り響いていた日野商人の知名度のすごさを知ることができました。このような発見も、今回が最初です。

ちなみに、「中郡、八幡、商人衆」の意味は、日野商人の当番仲間にも所属している五個荘付近や八幡の一部の商人を意味しています。大当番仲間の全国的な組織網の便利さにひかれ、日野地域以外の多くの商人も、大当番仲間に加わっていたのです。

日野商人の定宿や定休所になっていた宿屋や茶店の多くは、現在の中仙道にも何らかの足跡を多く残しており、今もなお旅館業を営む家もありました。

日野商人の定宿をよく観察してみると、宿場の中心的な役割を果たし、大名行列の宿泊に使用された本陣や脇本陣などの高級旅館が

多いこともわかりました。

今回の旅は、収穫を得るばかりではなく、かつての日野商人の歴史を、行く先々の現地の人々に知ってもらおう情報発信の旅ともなりました。

赤信号で停車し、ご先祖が日野出身の「日野屋豆腐店(先祖は「奥村ぐん兵衛」)を偶然に見るなど、現地の人々との感動的な触れあいも数々ありました。

全国のなかでも、小さな日野町ですが、現在の旧中仙道にも日野商人の偉大な足跡が数多く残っており、日野町の歴史に大きな誇りを感じる旅となりました。



▲沓掛宿の宿屋・土屋家の広告